

2023年1月更新

郷土を調べる
パスファインダー③

鳥栖の鉄道の歴史 について 調べてみよう！



268号機関車
一般公開のようす

「のってきたよ！
駅員さんの
ぼうしもかぶったよ。」



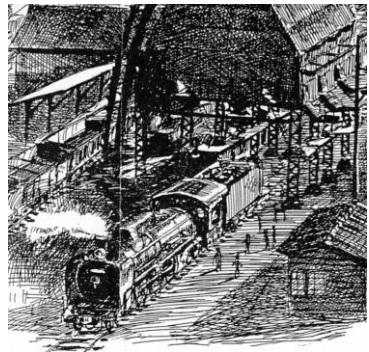
2014.3.1

 鳥栖市立図書館
Tosu Publics Library

TEL 0942-85-3630

鉄道の町 鳥栖の歴史

- 明治22年 博多～千歳川(筑後川の旧称で仮駅)間、開業
- 明治36年 鳥栖駅構内拡張され駅舎が現在地に新築移転。供用開始は翌37年6月
- 明治39年 鳥栖機関庫(東車庫)落成
- 明治41年 鳥栖車掌所・火夫見習養成所設置、長崎線を長崎本線と改称
九州鉄道管内各駅各付、鳥栖二等駅となる
- 大正4年 鳥栖鉄道治療所(病院)設置
- 大正10年 鳥栖検車区設置
- 大正12年 通信区設置(人員役80名)
- 大正14年 板阜(ランプ)開設
- 昭和2年 鳥栖操車場・駅改良工事落成
久大線久留米駅～筑後吉井間開通(26.4km)、鳥栖始発駅となる
- 昭和5年 自動給炭機新設
- 昭和9年 肥前浜～諫早間まで全通したので同区間を長崎本線とし、従来の長崎
本線肥前山口～早岐間を佐世保線に、早岐～諫早間を大村線とする
- 昭和11年 鳥栖機関庫を鳥栖機関区と改称、久大線を久大本線と改称
鳥栖駅構内拡張工事始まる
- 昭和17年 鳥栖管理部を設置
- 昭和20年 「鳥栖空襲」で鉄道施設に被害
- 昭和26年 鳥栖駅前大火、元管理部など消失
- 昭和30年 この頃、鳥栖機関区全盛
- 昭和36年 門司港～久留米間電化開通
- 昭和39年 ディーゼル機関車33両配属
- 昭和47年 長崎本線最後のSL
- 昭和59年 操車場(ヤード)廃止
- 昭和62年 国鉄からJR九州として民営化スタート
- 平成17年 田代駅東に鳥栖コンテナターミナルを新設
- 平成23年 新幹線博多～新八代間開業、新鳥栖駅開業

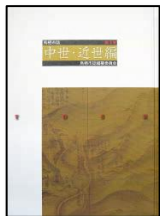


絵:「栖 52号」より

(参考資料:「栖 第52号」P71～75)

★まず鳥栖市の歴史の基本図書で、鳥栖の鉄道の歴史を大きくつかむ

書名	著者	出版年月	背ラベル
鳥栖市誌 第4巻「近代・現代編」 P665～	鳥栖市教育委員会	2009.3	A 092.1ト
鳥栖の歴史読本 P182～183	鳥栖市教育委員会	2009.9	A 092.1ト

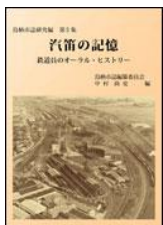


→『鳥栖の歴史読本』(右側)は、鳥栖市誌の入門書としての1冊。オールカラーで読みやすく図書館でも人気の1冊。

どちらも、貸出用の複本も揃えています。

★鳥栖の鉄道関連書籍

汽笛の記憶	鳥栖市誌編纂委員会	2007.3	A 092.1ト
-------	-----------	--------	----------



→鳥栖市誌研究編第5集、鳥栖市域で日本国有鉄道に勤務された様々な職種と世代の方々を対象として、鉄道員の仕事と意識に関する聞き取り調査を行い、戦前から戦後に至る鉄道の作業現場の内実とその変化を明らかにしている。

※絶版。図書館でどうぞ、インターネットでも一部公開されている。

(鳥栖市公式HP内: <https://www.city.tosu.lg.jp/soshiki/26/1820.html>)

栖(すみか) 第52号	鳥栖郷土研究会	2013.10	A 092.1ト
-------------	---------	---------	----------



→「鳥栖駅開業125年、移転新築110年記念号」として2013年発行のされた「栖 第52号」。

”鳥栖と周辺の自然と歴史をさぐる郷土誌”「栖」は13号、33号、42号でも鉄道の特集をしています。

豊富な写真と読みやすい記事で、手にとりやすい資料です。

★図書館にはこんな関連書籍も・・

日本国有鉄道百年史(全14巻)	日本国有鉄道	1997	R 686.2ハ
-----------------	--------	------	----------

→九州鉄道の始まりの様子は、第2巻、4巻に詳しい記述がある。

鉄輪の轟き	長谷川 昌弘 他	1989	R 686 ㊦
-------	----------	------	---------

→九州の鉄道100年記念誌。写真が豊富。長崎本線の分岐は当初、田代が予定されていたという記述もある。

鳥栖に残る鉄道の遺産をたずねてみよう



JR鳥栖駅

明治36年現在の駅舎が建てられた。当時の洋館風木造駅舎が残る貴重な鉄道遺産駅。切妻屋根と、軒先に長く張り出すひさし、時計付きの車寄せ、当時の九州の駅で、典型的だったスタイルが他に類をみない程原型をとどめている。

駅正面から虹の橋をわたって駅の東側 に行くと・・



230形268号蒸気機関車

(鳥栖市重要文化財)

明治38年に製造され、昭和10年代にかけて運用されていた機関車で、かつて鳥栖の反映の要ともなった歴史的文化財。230形機関車は大阪の交通科学博物館で保存展示されているものと、鳥栖市にあるものの2両のみしか現存していない。

サンメッセ鳥栖の前には・・



八坂甚八翁頌徳の碑

1853年(嘉永6年)、鳥栖市の真木村に生まれた八坂甚八。さまざまな事業で成功をおさめ、地域の経済発展に多大な功績を残した。明治18～19年頃、鉄道の将来を九州鉄道の開通にあたり、鹿児島本線と長崎本線の分岐駅の誘致に奔走し、駅となる土地を自ら提供し、鳥栖駅が完成。鉄道の町の基礎を築いた。



鳥栖操車場記念碑

42万平米もあった操車場。開設は大正14年。昭和39年には機関車が62両も配置されたという記録がある。